



自分の何かを訴える絵を描きたいと高橋さん

機三十五機をフル稼働させ「を」と懸念だ。一行は十
シーズン当初から最高のコ 日、北見方面に向かう。

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の
横顔

■上■

平成四年度釧新郷土芸術賞の受賞者は、絵画の高橋弘道氏、音楽部門で釧路交響楽団、箏曲の国沢秀一氏の二氏一団体に決まった。それぞれの分野でのひたむきな研鑽、そして郷土にしっかりと根をおろした活躍は、今後の飛躍につながるものだ。期待される受賞者の横顔と活動の軌跡を紹介する。

JRで機関士として10月まで乗務

受賞について「これからはもっといい絵を描け、という励ましとして喜んでいきます。でも、私は絵務、規則、命令をきこつ

の専門教育を受けたわけではないし、もろっていいのかなという気持ちもあります」と語る。

絵画

高橋 弘道さん

釧路市若草町一一の一四

と守る。緊張感の強い仕事の一方、「絵は自由、自分を自由に表現できる。だから、テクニックがある

五年に釧路湖陵高校定時制を卒業後、旧国鉄に入社。現在はJR釧路運転所に勤務している。昭和

街並みモチーフに

実風景を再構築、抽象化

つても何も感じない絵より、下手でもいいから、自分の持っているものを訴えていきたい」と制作への姿勢だ。

四十五年頃に職場の仲間に触発され、職場の動力車絵画クラブに入会して油絵を描き始めた。昭和四十五年、釧美展に初出品して入選。四十九年に

展初出品・初入選から、今年まで連続六回入選を果たし、昨年は奨励賞を受けた。この時期から道路や街をテーマにしはじめ、しだいに現在のパス

の投影で、人を描かなくても、人の寂しさ、悲しさ、おぞましさを絵に表現したい

全道展、今年まで連続6回入選

高橋さんは昭和十六年釧路市生まれ。昭和三十

一と五十年にパーク美

クラシックを聞きながら制作

今年十月、市内のさき画廊で初の個展を開

高橋さんは昭和十六年釧路市生まれ。昭和三十

一と五十年にパーク美

の投影で、人を描かなくても、人の寂しさ、悲しさ、おぞましさを絵に表現したい

クラシックを聞きながら制作

今年十月、市内のさき画廊で初の個展を開

持たて白雲の天使を自指とを誓ったのを端に弄したともします」と誓いの言葉を述べた。
儀式。